川崎授産学園 オンライン福祉講演会（令和４年３月12日（土）開催）

「脳が不自由」ってどんな感じ？

発達特性にも認知症にも精神疾患にも…あらゆる当事者が望む対応　～報告書～

市民交流事業　佐藤　恵

川崎授産学園では一般市民に障害理解を深めてもらう為に、年１回福祉講演会を開催しております。今年度は、脳梗塞を発症され高次脳機能障害当事者となった文筆業の「鈴木大介様」を講師にお迎えし、ご講演いただきました。

講師　鈴木大介氏　プロフィール

子どもや女性、若者の貧困問題をテーマに『最貧困女子』（幻冬舎）などを代表作とするルポライターだったが、2015年に脳梗塞を発症。その後は高次脳機能障害者としての自身を取材した闘病記「脳が壊れた」「脳は回復する」（いずれも新潮社）や夫婦での障害受容を描いた「されど愛しきお妻様」（講談社）などを出版し、援助職全般向けの指南書「『脳コワ』さん支援ガイド」（医学書院）にて日本医学ジャーナリスト協会賞大賞を受賞する。

講演会は、オンライン開催ということで、市内の方、市外・県外の方と多くの方々にご参加いただきました。講演会では、鈴木様の体験談を交えながらスライドや動画を使用され、とてもわかりやすくお話してくださいました。今回、全ての内容をお伝えすることができませんので、その一部をお伝えさせていただきます。

高次脳機能障害って？？

交通事故による脳外傷や脳卒中などの理由で、脳の神経細胞が破壊されてしまったことによって起きる脳の情報処理機能の障害で、一般的に記憶障害、注意障害などの障害があります。福祉制度上は、精神障害の一つに位置づけられています。

講師が当事者になって感じた感覚 → **人生の途中で突然、自閉症や発達障害、ある程度進行した認知症に酷似する不自由の世界に叩き込まれてしまった、という感覚のようです。**

“日常生活の当たり前のことができなくなる障害“

◆脳が不自由って？　どんなことができなくなるの？　何が起きてるの？

情報処理が上手くできず、処理速度が低下、頭の中に情報を留めておけない

今、自分がどんな状況にあって、自分が何をすべきなのか時間がかかってしまう。
周囲の情報が早すぎて、咄嗟の判断が難しい。いつも周囲から置いてきぼり・・・。

さらに大きな音、光、色、動く物、複雑な情報が加わると…（例）駅構内をイメージ

“今考えたことが、凄い勢いで頭の中から消えてしまう”
“忘れる感覚より、脳内から情報が奪われる感覚”

破局反応

情報量が多く処理しきれず、オーバーフロー状態になるとパニックに！

努力だけではどうにもならない「強い不自由感」
➡これが“障害”で、脳が不自由ということです

社会生活上ではこんな大変さがあります　**“ひとりで生きていくことがとても困難”**

最大のリスクは“孤立”

😥コミュニケーション力の崩壊
⇒当事者心理は、強い不安、恐怖、自己不全感、無力感

😥管理力の崩壊
⇒約束の時間を守れない、スケジュール管理ができない等

😥脳が不自由ってことを他者に理解してもらうのが困難
⇒目に見える障害ではない為、理解してもらえない、さぼっているように見えてしまう
⇒「〇〇で困ってます」等、自分の困難状況を他者に説明できない

◆あらゆる当事者が望む対応について◆

- ゆっくり、シンプルで具体的な情報が欲しいです。
- 尊厳に配慮した対応をして欲しいです。私ができることを探して欲しいです。
- 身近な人がそばにいて、ちょっと手伝ってくれるだけで、不安が減少し、できることが増えることを知ってもらいたいです。

鈴木様より、脳が不自由になる＝脳が情報処理機能を失うことで起きる不自由や苦しさは、病名・障害名を問わず一定の共通性がある、つまり、当事者理解への道筋や支援にも一定の共通性があるとのお話がありました。支援者や家族は、当事者の方の「脳に起きている不自由さ」を理解するとともに、できる可能性といったプラスの視点を忘れずに、尊厳に配慮して当事者の方に関わることが大切であることを学びました。

鈴木様、貴重な体験談を交えたお話、有難うございました。

【ボランティア希望や見学等のお問い合わせについて】

新型コロナの流行状況により受入れ体制が変わっております。必ずお問合せください。

社会福祉法人セイワ　川崎授産学園　川崎市麻生区細山 1209 番地　担当：佐藤・酒井
TEL　044-954-5011（代）　E-mail　info@seiwa-gakuen.jp